

## 抗 Toa1p 抗体

免疫動物：ウサギ

ポリクローナル 抗血清

62-021 50 $\mu$ l, 62-022 250 $\mu$ l

基本転写因子 TFIIA は、TATA ボックス結合タンパク質 (TBP) の DNA 結合を安定化するとともに、転写調節因子の働きによって基本転写因子 TFIID が活性化される際に重要な役割を果たす。また出芽酵母の TFIIA は、Toa1p (286aa)、Toa2p (122aa) という 2 個のサブユニットから構成される。

本品は、出芽酵母 TOA1 遺伝子にコードされる Toa1p タンパク質の全長 (1-286aa) をプラスミドにクローニングし、大腸菌で多量に発現させ、クロマトグラフ法により精製したリコンビナントタンパク質をウサギに免疫して作製した。

本品を抗血清として用いたウエスタンブロットにおいて、出芽細胞抽出液中に Toa1p の約 48 kD のバンドが検出された (図 1)。

### 用途

- 1) 出芽酵母 Toa1p の検出や定量を目的としたウエスタンブロット法や ELISA 法に使用できる。

### 製品の性質

性 状：0.1%アジ化ナトリウム添加抗血清

保 存：4 $^{\circ}$ C

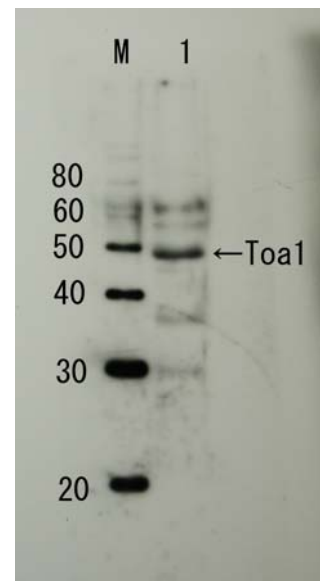


図 1 抗 Toa1p 抗体を用いたウエスタンブロット法による Toa1p 抗原の検出

レーン 1、出芽酵母細胞抽出液

抗血清は、5,000 倍希釈して使用